



静岡県 浜友観光株式会社  
「遠州灘中田島砂丘アカウミガメ放流会」事業



浜友観光株式会社  
代表取締役社長  
大石恵司さん

## 命や自然の大切さを学ぶ アカウミガメ放流会

浜松の海岸でアカウミガメ放流会を継続実施

遠州灘を臨む静岡県浜松市の中田島砂丘。東西4km、南北600mにわたる砂丘は日本三大砂丘の一つに数えられているが、この砂丘を含む一帯の海岸は日本でも数少ないアカウミガメの産卵地として知られる。5月中旬から8月下旬にかけて、絶滅危惧種に指定されているアカウミガメが産卵のために数多く砂浜に上陸する。1990年には「浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地」として、浜松市の文化財(天然記念物)にも指定されている。

このアカウミガメの調査・保護活動に取り組んでいるのが、1980年代から遠州灘で自然観察や自然調査などの活動を続けている自然保護団体「サンクチュアリジャパン」、およびそのサポートや活動拠点となる「サンクチュアリネイチャーセンター」を運営するNPO法人「サンクチュアリエヌピーオー」である。その協力を得て、2000年から毎年秋、中田島砂丘で「楽園アカウミガメ放流会」を実施しているのが、浜松市に本社を置きパチンコホール「楽園」グループを展開する浜友観光株式会社／浜友グループ(以下、浜友観光)である。

浜友観光は、「市民や地域、社会の顕在的・潜在的な要請に応え、より高次の社会貢献や配慮、情報公開や対話を自主的に行うべきである」という基本方針のもと、「環境活動」、「地域支援」、「文化支援」の3つを柱に社会貢献活動を展開している。この放流会活動は、自然保護と、子どもたちを中心に命の大切さや自然の大切さを学んでもらうことを目的に行われているものである。

実施にあたっては、静岡県内の9ホールに特設カウンターを用意し、来店客に放流会への参加申し込みをもらい、当選者を招待するという形を取っている。毎回、約3000名の応募者があり、その中から500～600名が選ばれる(参加者の約70%は、小学生くらいまでの子ども)。アカウミガメの保護活動の輪を広げるためにも、なるべく初めての人を中心に選ぶよう配慮しているという。



静岡大学の馬塚丈司先生からウミガメの生態や放流の際の注意事項について聞く子どもたち



ふ化したばかりの子ガメを一齐に放す子どもたち。20年後の再来を期待して、「ガンバレっ」の声が飛ぶ

### 20年後の再来を期待しつつ子ガメを放流

第14回目となった昨年は、9月21日に545名が参加して開催された。当日の中田島砂丘は晴天に恵まれ、絶好の放流会日和。参加者の多くは子ども連れでの参加となった。まず、「サンクチュアリジャパン」の代表である静岡大学の馬塚丈司先生から、アカウミガメの生態や遠州灘や中田島砂丘の自然環境、放流の際の注意事項などについての説明があった。

その後、海岸に移動した参加者には、前日の夜から朝にかけてふ化したばかりの体長約6cm、重さ約15gのアカウミガメの子ガメ(合計300匹)が手渡された。なお、子ガメはサンクチュアリジャパンが砂から卵を掘り出し、保護柵で保護しふ化させたものである。小さなかわいらしい足をバタバタさせる子ガメを手にした子どもたちは大はしゃぎ。ジッと食い入るように見つめたり、顔に近づけて

写真に撮ってもらったりと、思い思いの反応を見せていた。放流の合図とともに、参加者が一齐に子ガメを手放すと、子ガメは海に向かって必死に進んでいく。その様子を見守る子どもたちからは、「ガンバレっ」の声援が飛んだ。

中田島砂丘近くの海岸で生まれ、放流された子ガメは、太平洋を赤道あたりまで巡りつつ成長し、約20年後に、産卵のために再び帰ってくるという。

浜友観光では、今後も20年、30年と「楽園アカウミガメ放流会」を継続していくとともに、浜松市を中心に地域に根差したさまざまな社会貢献活動に積極的に取り組んでいく決意である。なお、当日の放流会の模様は、地元静岡新聞に掲載されたほか、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビで放映された。